

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西川副小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

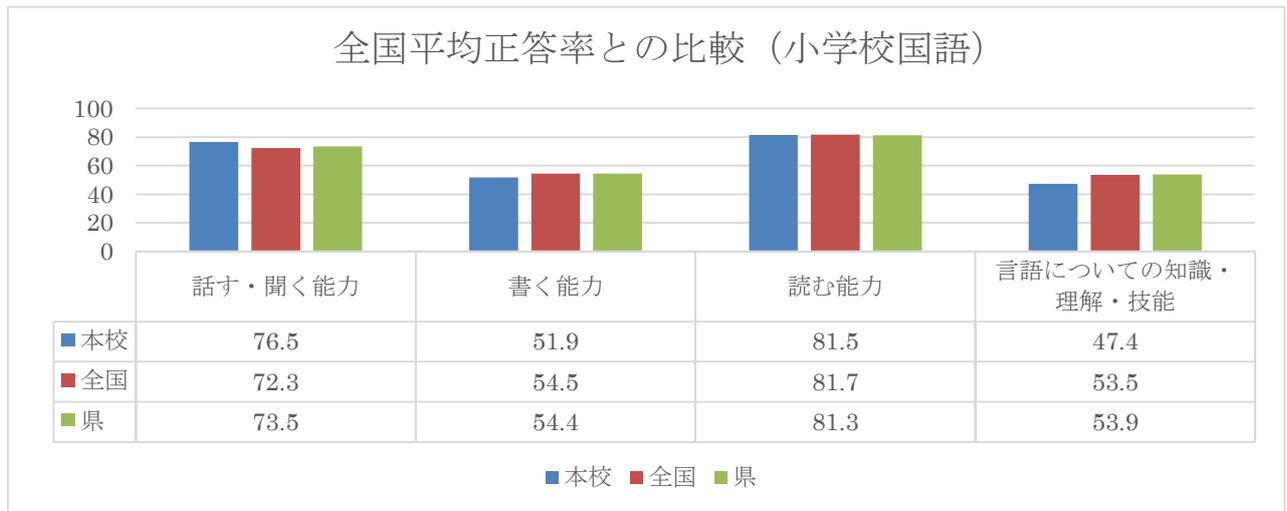
児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(2) 成果と課題

<話す・聞く>

話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するための質問をしたり自分の考えをまとめたりする問題では、県・全国平均ともに上回っている。しかし、自分の考えをまとめる問題では無答率が高い。日頃から、話をもとに自分の考えを伝え合う場を大事にしていく必要がある。

<書く>

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題が見られる。図表やグラフなどを用いた目的を捉えたり、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えたりする問題では、全国平均よりやや低い正答率だったが選択式だったため、無回答者はいなかった。

<読む>

目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む問題は、県・全国平均ともに上回っている。目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことに課題が見られる。

<言語事項>

ことわざの意味を理解して自分の表現に用いることはできている。漢字を文の中で正しく使ったり、文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書いたりすることに課題が見られる。使える語彙を増やす必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

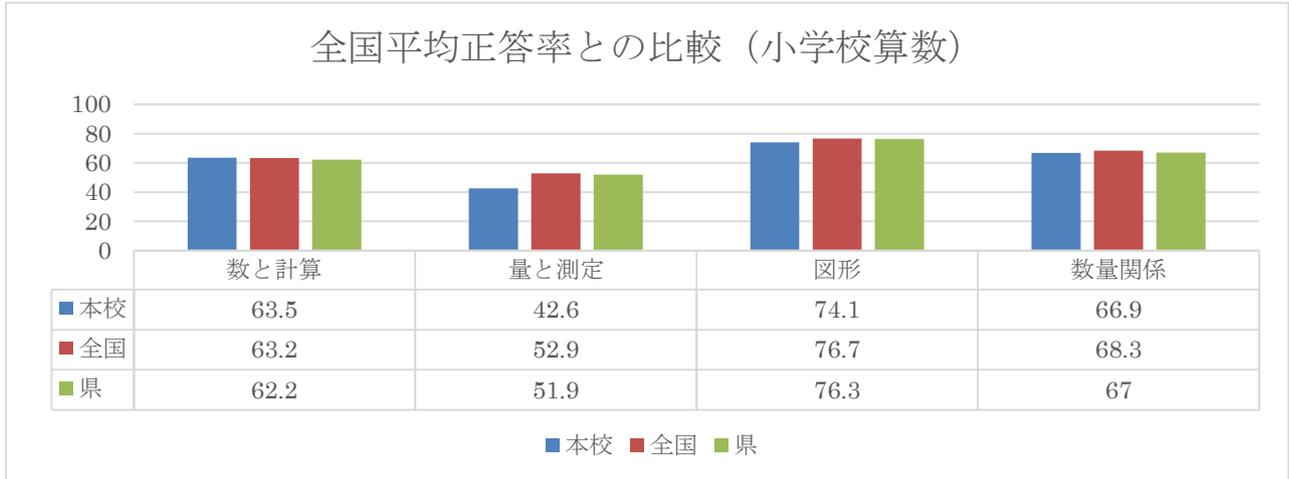
【学校では】

- 宿題の出し方について情報交換する時間を設定し、どんな目的でどんな内容を出すのか、どの程度の量を出すのか、学校全体で話し合った上で学年に応じた内容にしています。
- 週末課題に読書を加え、図書室の本の持ち帰りを勧めています。学年毎に選定した「おすすめの本」を活用しながら学年に応じた読書と呼びかけ、読解力の伸びにつなげます。
- 理由や事例を挙げて書く際は、「なぜか」といって「その理由は～」 「例えば～」などの表現を使ったり、文末の書き方を使い分けたりすると良いことを指導していきます。
- 授業中に話し合い活動を位置づけ、互いの意見を交流する場を設けています。学習したことを繰り返し用いたり使いこなす機会を多く持ったりしながら身に付けていくことをねらっています。

【ご家庭では】

- 毎日の音読が支えになります。精査された良い文章を繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、まとまりを意識して読み取れるようになります。
- 親子でニュースや季節の行事、読んでいる本についての会話を楽しんでください。様々な話題に触れることで知識の幅が広がり、語彙力を高めることができます。また、親子で共感する場を持つことで、主体的な学びを支える豊かな心が育っていきます。

2 算数



(1) 結果

基礎的な学力を問う「数と計算」や短答式の問題は全国平均を上回ったが、他の領域は全て下回っている。特に、求め方の説明、理由や方法を記述する問題の正答率は38%と低かった。自分の考えを筋道を立てて表現することを苦手としていることが考えられる。

(2) 成果と課題

<数と計算>

全体的には県・全国平均をやや上回った。特に、単純な計算問題は大きく上回り力をつけてきている。しかし、少し複雑な文章問題であったり、記述で答えなければならない問題になったりすると正答率が低くなった。ただ問題の解き方を覚えるのではなく、常に「なぜか」を考えさせ表現させる授業展開が必要である。

<量と測定>

県・全国平均を大きく下回った。ここでも公式を適用し答えられる問題の正答率が高いが、理由や方法を説明する記述式の問題の正答率は低かった。提示された問題を正しく解釈すること、条件に合わせて考える力を繰り返し学習していく必要がある。

<図形>

県・全国平均と比べると、技能の分野ではやや上回り、知識・理解の分野ではほぼ同等の結果となった。しかし、図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成することは難しく全体的には下回る結果となった。学習過程において予測し、イメージし、実際に図形を動かしてみるという学習活動が必要である。

<数量関係>

グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることはできるが、読み取ったことと問題を関連付けて考え判断することに困難さが見られた。複数のグラフを組み合わせたり、関係付けて考えたりするなど、目的に応じて表やグラフを活用する活動を重視していく。また、多くの情報の中から目的に応じて必要な情報を選ぶ力も育てる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 朝のチャレンジタイムで、基礎・基本の四則計算を中心に学習の定着を図ります。
- 授業では、「めあて」と「まとめ」「振り返り」を提示し、主体的に学習に取り組めるように支援していきます。また、自力活動の時間や話し合いの充実を図り、みんなで理解を深める実践をしていきます。
- 日々の学習指導（TT少人数指導、宿題の工夫、テストなど）の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。また、家庭との連携・協力を図っていきます。
- 単元テストは、基準点に到達するまで再テストを行い、学習内容の定着を図ります。

【ご家庭では】

- ノートや宿題、テスト等に目を通し、理解の度合いや学習の仕方などを把握してください。また、励ましや称賛の言葉をかけることで、児童の学習への意欲向上や自信につながります。
- 身近にある単位や図形に目を向けさせたり、買い物での割引額を一緒に計算したりするなど算数の学習を生活で生かすような声かけや体験をぜひさせてください。
- 学年に応じた学習時間の確保をお願いします。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	92.6	91.6
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	75.9	81.4
朝食を毎日食べていますか。	94.5	95.3
学校のきまりを守っていますか。	50.3	50.1
平日読書を30分以上している。	34.7	30.1
平日読書は全くしない～10分未満	53.5	46.7

起床・朝食については全国平均とほぼ同じである。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムについて話し合い、不規則にならないように気をつけさせたい。

読書については、30分以上読書をしている割合より10分未満の割合が高い。読書の習慣が身につけていない児童が多いことが気になる。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	35.0	33.1
平日1～2時間勉強している。	9.9	12.1
平日0～1時間勉強している。	17.5	16.9

家庭学習は22%が2時間以上と答えているものの、まだ1時間未満の児童が42%おりかなり個人差が見られる。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきたい。

《意欲について》

調査の項目	本校%	全国平均%
ものごとを最後までやり遂げて嬉しかったことがある。	96.3	95.2
難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。	83.4	79.0
学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、嬉しかったことがある。	72.2	84.1

失敗を恐れず挑戦し達成感を感じている子が多い。但しクラスみんなで取り組んだことへの達成感が全国平均に比べて10%以上低いことが気になる。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 家庭学習の手引きを再配布し各学年家庭学習の目標時間が達成できるように課題の工夫を行います。自主学習（自学）については高学年で取り組み、お手本になる自主学習ノートを掲示していきます。また中学年にも少しずつ広げていきます。
- 週末課題に読書を加え読書量を増やしていきます。図書館祭りに積極的に参加させ読書の楽しさに触れさせていきます。
- 単元テストの後、再テストを行い全員が90点以上取れるように復習にも力を入れていきます。

【ご家庭では】

- 「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に規則正しい生活習慣の定着をお願いします。テレビやゲーム等の使用時間を決めるなど家庭でのルール作りが学習習慣の定着にもつながります。
- 親子で読書、親子で調理、親子での関わりを増やしてください。共通体験を通じて得られる保護者の言葉は子ども達の胸に響き、これからの成長を後押ししてくれます。
- 低・中・高学年ごとに家庭学習の時間や内容を示した「家庭学習の手引き」をご確認いただき、家庭学習の充実を図っていただきたいと思います。